

西南学院小学校 学校長メッセージ

「学校通信 Wings 2020年5月号」

主によってしっかりと立ちなさい

フィリピの信徒への手紙4章1節

新緑がまぶしい季節となりましたが、今年の春は重苦しい日が続いています。今は(対ウイルス戦の)戦時下であるとの表現も報道で見られ、日常が奪われ先行きも見えない中では不安だけが高まってしまいそうです。そんな中、4月26日付朝日新聞朝刊に掲載された富士原辰史京都大学人文科学研究所准教授の記事の中の一文は、冷静になることの大切さを改めて気付かせてくれるような気がします。

ワクチンと薬だけでは、パンデミックを耐えられない。言葉がなければ、激流の中で自分を保てない。言葉と思考が勁(つよ)ければ、視界が定まり、周囲を見渡せる。どこが安全か、どこで人が助けを求めているか。流れとは歴史である。流れを読めば、救命ボートも出せる。歴史から目を逸らし、希望的観測に曇らされた言葉は、激流の渦にあつという間に消えていく。

休校が長引いて規則正しい生活を送ることが難しくなっているかもしれません。それでも、時には守れないことがあっても、あきらめてしまわずにルーティンワークを何とか続けることができれば、そのことを通して自己管理能力が育ちます。自己管理能力は経験を通さないと身につかないことであり、これから先学習面はもちろん生活全体の質を上げていく大きな力となります。

また、普段より時間がある今の時期にできるだけたくさんの本を読んでおくことも、この先大いに役立つと思います。思考力の育成もそうですが、教科書や図鑑を読んで、よく分からなくてもこれから学習することに出合っておく、それだけでも価値はあります。学習することについて、少しでも知っていることがあるのとないのでは、授業での興味・関心や意欲、理解の仕方が違ってきますし、何となく見たことがある、読んだことがある、こんなことかなと考えたことがある、そうしたこと(きちんと学んだわけではないので「素朴知」といってもいいでしょう)の蓄積があると、授業で、「あ、それはこういうことだったのか」と実感を伴った理解をすることができます。学校の授業とは関係ないことでも、できるだけ多くの「素朴知」を今のうちにためておくと、きっとどこかで役に立つはずです。文部科学省やNHK、自治体のホームページからも様々な家庭学習支援サイトにアクセスできます。

本当に大変な事態ですが、日常が奪われるだけに終わってしまうのはあまりにも悔しいことです。私たちも様々な方法でこの難局を乗り越えていくために頑張っていきます。子どもたちにも、少しでもこのピンチをチャンスに変えてほしい。そう心から願っています。

ゴールデンウィークも今年は我慢の週間となりますが、ご家庭でも健康管理に細心の注意を払って、安全にお過ごしになってください。

(文責:宮崎 隆一)